

東京感化院の此頃

主事 土田 行 學

青い秋の空晴れて、子供等は運動會に遠足會に楽しい時を送つて居る頃、不良少年とか云ふいとふべき名をさせられて、華かな子供の世界から、離されてゐる少年達があります。彼等は秋の月を眺めながら日一日とより善い方に進んで行かうと志して居ります。

只今三十名程の少年達が居ります。年齢は八歳から十八歳まであります。八歳以下の子供達でも、將來かう云ふ所に來るやうな悲しむべき傾向をもつたのもありますが、學齡前は子供の教育は全く家庭の母の手にあるべきものであらうと云ふ事から、餘り幼い子供達は來て居りません。

此處に少年達が連れて來られますと、先づ命名式を行ひまして、今までの名を互ひに呼ばせず、新しい名を與へるのであります。それは子供の將來を考へてする事でありませう例へば加藤太郎といふ子供がおりますなら、加藤の「加」だけをどつて、更にその

子供の弱點を矯正する爲に、正直といふやうな名を與へてやります。そして院内に居る間は、加正直さん等と呼んでやるのです。さうすると、正直さんと云はれる子は一生懸命正直にしなければならぬ事を、自分の名を呼ばれる爲に思ひ出すのです。

毎日是等の少年達は何をして居るのであらうか、と思はれるでせう。彼等は中々有益な日を送つて居ります。毎朝五時半起牀、七時に朝食、七時半には克化殿と云ふ室で禮拜式が行はれます。此の感化院は日蓮宗でありますから、其の主義で禮拜式が行はれ、日蓮宗のお經を朗み、「立ち渡る身の浮き雲も晴れぬべし、絶えぬみ法の鷲の嵐」と云ふ、日蓮上人の御歌に、曲をつけて合唱します。八時から十二時迄授業があつて、甲(中學部)乙(高等小學部)丙(尋常五年以上)丁(尋常三年以下)の部に別れ、それ〴〵適當の學科を教授します。午後一時から三時まで、勞働として主として園藝をさせ、弓術、自修等をさ

せてゐます。三時から四時半までは自由行動として置きます。

其他謠曲と茶湯とを當院に於て少年達にさせて居ります。謠曲は日曜の午前と水曜の午後とにありませんが、謠曲を選んだわけは、文章そのものが美しく、また舞が優美で、かつ謠曲をする時の姿勢が正しく落ついてゐるので、優美にやさしいものとか、心をおちつけるものとかは、心の動搖のはげしいかう云ふ少年達には殊によろしいのであります。茶湯は火曜午後にさづけてありますが、之も心をおちつかせ、優美にする爲めであります。

一年も院内に居りますれば、もう性質も善良になり、大抵將來成功しそうになるのですが、この一年間が最も大事なのであります。「感化院」と云ふ名を聞かされ、門をくゞつて來ると、どんなに恐ろしい所だらうと、さすがの少年達も恐怖するのですが、さあ這入つて見れば、鬼のやうな人もなく、先生達も割に自由であり、規則正しい生活をさせられるので、少々あてがはづれてくる、さうすると淺草の活動寫真に遊んだ時の頃が、楽しくなつて來て、どうにも飛び出したと思ふのです。こんな時に私共が、

もうそろ／＼買物に出してもよからうと、外出させるとそのまゝ何處かへ行つてしまふ事もあります。

この感化院が設立された當時の明治の三十年頃は感化院に來る少年達といふと大抵家庭が主なる原因でありました。例へば、繼母があつて折合がうまくゆかない、といふのが多くありました。しかし近頃では、物質文明の悪い影響を受けたのも澤山あります。これは活動寫真、悪い新聞雜誌の愛讀者が、大變影響するやうです。例へば、活動寫真で忍術をして、子供が色々姿をかくして面白い事をして遊ぶ等といふ事を見ますと、自分もしたくて仕方がない、眞似をしだすと云ふ事になります。又新聞の三面等で、夏には各地の避暑地、温泉湯で、富豪貴族の令嬢、令息が、華美な生活をしてゐる、などといふ事を讀みますと、つひ其處へ遊びにゆきたくなつて親の金錢をぬすみ出して逃げる、など云ふ事をします。又近頃院内に來ましたのに、父親に反抗して所謂不良少年になつたのもありました。父親といふのは、社會に於て立派な地位の人でありますが、品行のなさまらぬ、豪奢な生活をしてゐる人で、何かについて新聞雜誌がその人の私的生活を面白半分書き立

てるものですから、子供等が學校へ行つて、「あなたのお父さんの事が何に新聞に載つてゐましたよ」、等と云はれると、とても友達の間には、ぶかしくて仕方がない、女の子ならひそかに不平を云つてゐる所ですが、男の子になると反抗心が起つて、「己もお父さんになんぞに負けずに悪い事してやるぞ」、など、云つて心の苦悶やり方なく活動寫真に入り、飲食店に入つたのが、次第に其の方面の快樂も味ふ事が出来てその儘になり果てたものもあります。

毎月十六日には、生徒の平素の品行調査が行はれまして、成績のよいものには、一等から十二等までの階級に分ち、一等から七等までを待遇生となし、七等以下を普通生として、待遇生には日曜毎に十錢、普通生には七錢づつを、小使としては與へて居りませんが、是等のお金を一まごめにして何かお菓子でも買ひにやる役にあたつて外出しますと、お金をみると發作が起つてその儘ふつと何處へか逃げてしまふ、と云ふ事も起りますので、中々安心が出来ませぬ。私共はこの方法ですつかり善良になつたかどうかを試験して居ります。

院内の娛樂としては、上品な茶話會、討論會、講

談會院外のものとしては遠足會、郊外散策會等開催して、かふ云ふ打とけた折に於ては、少年等は赤裸裸な言語動作を表すものでありますから、かうした折に少年の心理状態をためすことが出来ます。この六月から、「觀花園」と名づくる雑誌を發行し、作文習字圖書等を掲載しました。一體に此處へ来る少年達は音樂圖書等には秀でゝゐますから中々面白いものがあります。

此處を退院しましてから、眞面目な人間として社會に活動してゐるものも多くあります。此處へ入院するものは、十五圓から二十圓迄の入院料を要するのでありますが、只今三十人の中三分の一しかこの入院料を拂はずに、あとは半分支拂と救養とになつて居ります。

私共が毎年のやうに入院してくる少年達を見ますと、「感化院」と云ふ世の人々から特別の眼を以て見られる所へ來ない中に、幾らも母親の注意で救ふ事が出来たものをと思ふのが澤山あります。十四になり十五になつて、急に其年から性質に變化が來た等と云ふのではなく、知らず／＼の中に色々な事情から入院しなければならなくなるのを見ます。幼兒の教育が如何に子供の一生を支配するかを思ふと、實に／＼恐ろしい氣が致します。